

学校法人日本医科大学
武蔵小杉キャンパス再開発計画に係る
事後調査報告書
(供用時その 1 : 緑)

令和 7 年 3 月

学 校 法 人 日 本 医 科 大 学
三 菱 地 所 レ ジ デ ン ス 株 式 会 社

目 次

1	指定開発行為の概要	1
(1)	指定開発行為者	1
(2)	指定開発行為の名称及び種類	1
(3)	指定開発行為を実施する区域	1
(4)	指定開発行為の目的	1
(5)	指定開発行為の内容	3
(6)	指定開発行為の実施状況	9
(7)	環境保全のための措置の実施状況	10
2	条例評価書に掲げる事後調査計画の概要	13
(1)	事後調査の目的	13
(2)	事後調査の内容	13
(3)	調査実施者（業務受託者）	15
3	事後調査結果	16
(1)	調査目的	16
(2)	調査範囲	16
(3)	調査時期	16
(4)	調査方法	16
(5)	調査結果	19
(6)	調査結果の検証及び以後講ずる措置	27

資料編

「第1章 指定開発行為の概要」は、条例環境影響評価書の内容を示す。ただし、条例環境影響評価書提出後に変更しているものについては、「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届」の内容を示す。

1 指定開発行為の概要

(1) 指定開発行為者

名 称：学校法人日本医科大学

代表者：理事長 坂本 篤裕

所在地：東京都文京区千駄木一丁目 1 番 5 号

名 称：三菱地所レジデンス株式会社

代表者：代表取締役社長 宮島 正治

所在地：東京都千代田区大手町一丁目 9 番 2 号

(2) 指定開発行為の名称及び種類

名 称：学校法人日本医科大学武蔵小杉キャンパス再開発計画

種 類：都市計画法第 4 条第 12 項に規定する開発行為	第 3 種行為
高層建築物の新設	第 1 種行為
住宅団地の新設	第 1 種行為
商業施設の新設	第 3 種行為
大規模建築物の新設	第 1 種行為

(3) 指定開発行為を実施する区域

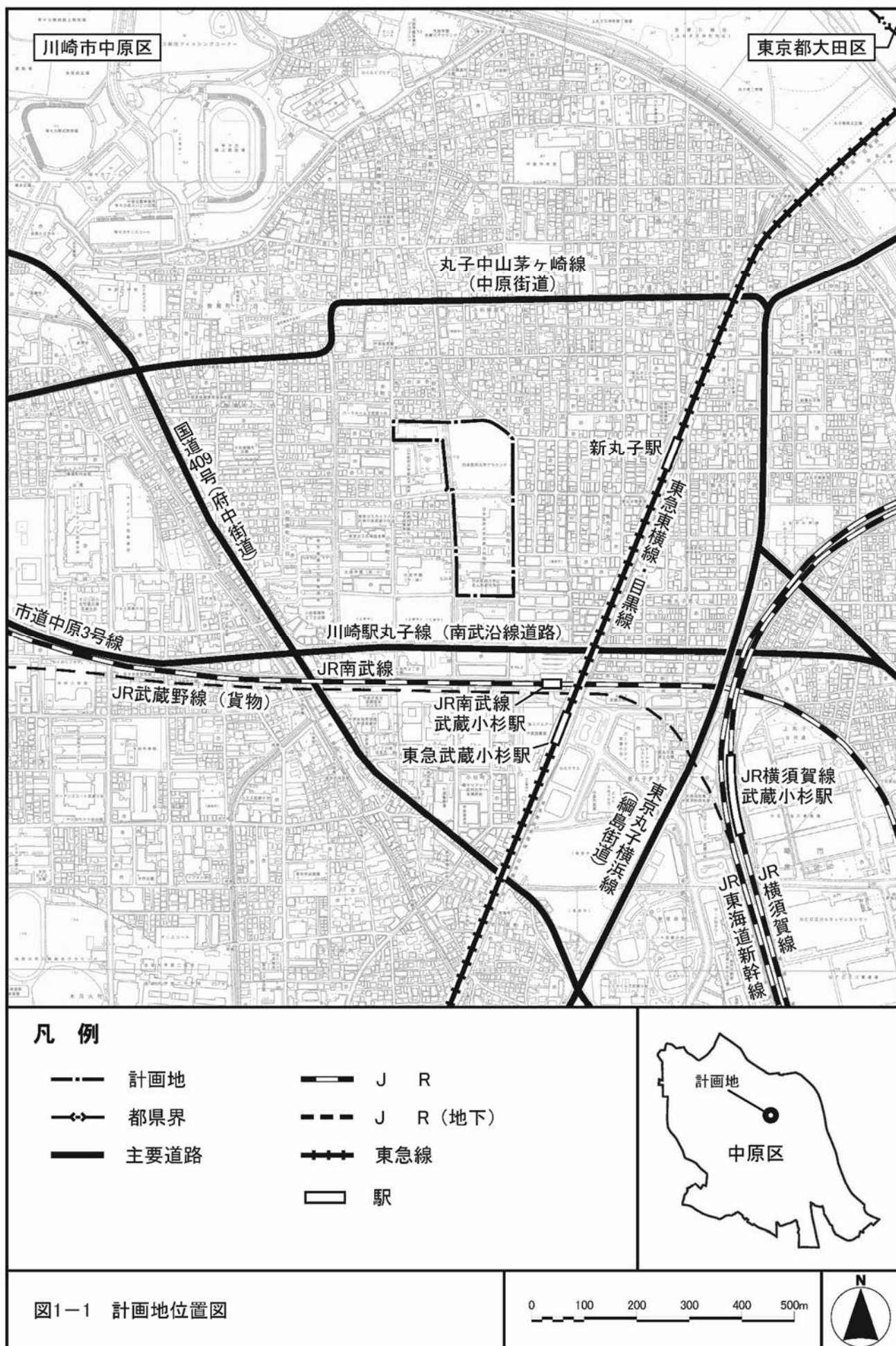
位 置：川崎市中原区小杉町一丁目 304-2、小杉町二丁目 298-1 の一部 外
(図 1-1 参照)

区域面積：約 41,730 m² (第一種住居地域)

(4) 指定開発行為の目的

ア 本事業の目的

本事業は、医療機能を中心とする既存機能の更新・充実を図るとともに、医療と文教の核を担う魅力あふれる複合市街地の形成をめざし、「病院・教育施設」の建て替え及び「道路及び公園等の都市基盤施設」と「高齢者向け福祉サービス施設、高齢者向け住宅、健康増進施設、飲食・物販施設等及び共同住宅」の整備をする計画である。



(5) 指定開発行為の内容

ア 土地利用計画

本事業における土地利用計画は、表 1-1 及び図 1-2 に示すとおりである。

A 地区の一部には、提供公園を設ける計画である。

B 地区には、病院及び教育施設の計画建物を配置する計画である。

C 地区は、土地の高度利用を図り、川崎市施設、高齢者向け住宅、健康増進施設、飲食・物販施設等及び共同住宅を導入する計画建物を配置する計画である。

また、B 地区及びC 地区の東側には、公開空地として緑道を設けるほか、C 地区の建物を高層化することで確保した空間は、歩道状空地や広場、緑化地として土地利用を図る計画である。

表 1-1 土地利用計画表

区 分		面 積				割 合
		A地区 の一部	B地区	C地区	合 計	
宅 地	計画建物	—	約8,210㎡	約10,000㎡	約18,210㎡	43.6%
	緑 化 地	—	約1,760㎡	約2,970㎡	約4,730㎡	11.3%
	車 路	—	約1,360㎡	約970㎡	約2,330㎡	5.6%
	通路・アプローチ等	—	約2,560㎡	約6,240㎡	約8,800㎡	21.1%
	小 計	—	約13,890㎡	約20,180㎡	約34,070㎡	81.6%
公 共 用 地	提供公園	約3,110㎡	—	—	約3,110㎡	7.5%
	道 路	約4,550㎡				10.9%
	小 計	約7,660㎡				18.4%
合 計		約41,730㎡				約41,730㎡

注) 「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届 (令和6年1月31日届出)」の内容を示す。



凡 例

- | | |
|-------------|--------|
| ■■■ 計画地 | ■ 提供公園 |
| ■ 計画建物 | ■ 道 路 |
| ■ 緑化地 | ■ 広 場 |
| ■ 車 路 | ■ 緑 道 |
| ■ 通路・アプローチ等 | |



図1-2 土地利用計画図

0 20 40 60 80 100m



イ 建築計画等

建築計画の概要は表 1-2 に示すとおりである。

B 地区は、病院・教育施設を建設する計画である。

C 地区は、2 棟の高層棟を建設し、低層部は川崎市施設、高齢者向け住宅、健康増進施設、飲食・物販施設等を配置し、高層部は共同住宅を整備する計画である。

高層棟の建物高さは約 177m を計画しており、共同住宅の計画戸数は約 1,440 戸を計画している。

駐車場台数は、合計約 751 台であり、B 地区は教育施設とアメニティ棟の間に機械式立体駐車場を、C 地区は主に高層棟に機械式立体駐車場を整備する計画である。

表 1-2 建築計画概要

項 目	B 地区	C 地区	合 計
主 要 用 途	病院・教育施設※2	川崎市施設、高齢者向け住宅、健康増進施設、飲食・物販施設等及び共同住宅	—
建 築 敷 地 面 積	約 13,890 m ²	約 20,180 m ²	約 34,070 m ²
建 築 面 積	約 8,210 m ²	約 10,000 m ²	約 18,210 m ²
建 ぺ い 率	約 60%	約 50%	—
延 べ 面 積	約 43,050 m ²	約 174,300 m ²	約 217,350 m ²
病 院	約 32,950 m ² ※2	—	約 32,950 m ²
教 育 施 設	約 8,600 m ²	—	約 8,600 m ²
共 同 住 宅	—	約 152,640 m ² ※3	約 152,640 m ²
駐 車 場	約 1,500 m ²	約 12,000 m ²	約 13,500 m ²
そ の 他	—	約 9,660 m ² ※4	約 9,660 m ²
容 積 率	約 289%	約 600%	—
建 物 階 数	地上 9 階、地下なし	地上 50 階、地下 1 階	—
建 物 高 さ	約 41.5m (最高高さ約 41.5m)	約 177m (塔屋等を含む 最高高さ約 184m)	—
建 物 構 造※1	R C 造、S 造	R C 造	—
計 画 戸 数	—	約 1,440 戸※5	約 1,440 戸
駐 車 場	約 111 台	約 640 台	約 751 台
駐 輪 場	約 240 台	約 2,555 台	約 2,795 台

※1 S 造：鉄骨造、RC 造：鉄筋コンクリート造

※2 アメニティ棟（延べ面積約 670 m²）を含む。

※3 C 地区の「共同住宅」の延べ面積には、高齢者向け住宅の延べ面積を含む。

※4 C 地区の「その他」の延べ面積には、商業施設（飲食・物販施設等）の延べ面積を含む。

※5 計画戸数には、高齢者向け住宅の戸数は含めない。

注）「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届（令和5年6月23日届出）」の内容を示す。

ウ 施工計画

本事業における主な工事内容は表 1-3 に、工事工程は表 1-4 に示すとおりである。

本事業は、第 1 期（39 ヶ月）及び第 2 期（72 ヶ月）の 2 つに工期を分けて、段階的に工事を実施する計画である。全体の工事期間は 119 ヶ月である（2018 年 5 月着工）。

作業日及び作業時間は、原則として日曜日を除く午前 8 時から午後 6 時までとし、前後 1 時間程度は工事の準備及び片付け等を実施する場合がある。

ただし、騒音及び振動を伴わない作業、コンクリート打設等工事の性質上、作業の中断が困難である場合、あるいは天候等の事情により作業時間及び日程に変更が生ずる場合には、事前に周知を行い、周辺環境に配慮した上で工事を行う。

各工事の期間は、A 地区の一部の提供公園新設工事が約 6 ヶ月、B 地区の病院棟等新設工事が約 29 ヶ月、教育施設新設工事が約 39 ヶ月、C 地区の解体工事が約 13 ヶ月、住宅棟等の新設工事が約 49 ヶ月を予定している。

表 1-3 工事内容

工 種	主な工事内容
①準備・仮設工事	仮囲い、工事事務所、仮設備設置、撤去工事、仮設道路工事
②解体工事	解体工事、整地
③山留・杭地業工事	SMW（ソイルセメント連続壁構築）、杭工事
④土工事	根切工事、残土搬出
⑤躯体工事	基礎躯体工事、地下躯体工事、地上躯体工事
⑥仕上工事	設備機器設置、外装、内装仕上
⑦外構工事	駐車場、構内車路、植栽、道路、外構工事等

表 1-4 工事工程（概要）

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
	← 119ヶ月 →									
A 地区の一部	第1期(39ヶ月)									
	6ヶ月									
	提供公園新設工事									
B 地区	第2期(72ヶ月)									
		29ヶ月				39ヶ月				
		病院棟等新設工事				教育施設新設工事				
C 地区					13ヶ月					
					解体工事				49ヶ月	
							住宅棟等新設工事			

注）「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届（令和6年6月19日届出）」の内容を示す。

エ 緑化計画

緑化面積は表 1-5、主要植栽予定樹種及び植栽予定本数は表 1-6、緑化計画図は図 1-3 に示すとおりである。

本事業の緑化にあたっては、「川崎市緑の基本計画」、「川崎市緑化指針」及び「小杉地区緑化推進重点地区計画」を踏まえ、計画地周辺との緑の連続性を考慮し、計画地東側に緑道を設けるほか、計画建物の周囲において可能な限り緑化を図ることで、計画地の北西側約 500m に位置する等々力緑地への玄関口にふさわしいというおののある都市空間の形成を図る計画である。また、A 地区の北側に地域の憩いの場となるまとまった規模の提供公園（約 3,110 m²、計画区域面積の約 7.5%）を整備する計画である。

植栽にあたっては、日照条件及び風環境に応じた樹種を選定するほか、花や紅葉等が美しい樹木など季節が感じられる樹種を選定する計画である。また、緑の構成を考慮し、高木、中木、低木、地被類を適切に組み合わせるなど、多様な緑の創出を図る計画である。また、緑道は、高木を中心に植栽し、地域のシンボルとなる緑豊かな緑道空間を創出する計画である。

緑被面積は、約 12,321 m²（29.5%）を確保する計画である。

表 1-5 緑化面積

区 分	緑被面積	計画地面積に対する割合
緑化地	約 4,730 m ²	約 11.3%
接道部緑化※1	約 637 m ²	約 1.5%
大景木植栽※2	約 3,844 m ²	約 9.2%
提供公園	約 3,110 m ²	約 7.5%
合 計	約 12,321 m ²	約 29.5%

注1) 計画地面積に対する割合は、端数処理の関係で、各区分の和と合計の値は一致しない。

注2) 「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届（令和6年6月19日届出）」の内容を示す。

※1 接道部緑化：道路と一体となった幅員1.0m以上の緑化地で、緑化地面積の0.5倍を緑化面積に割り増して計上することができる。

※2 大景木植栽：大景木（高さ6m以上、目通周0.4m以上、葉張り2.5m以上の高木）を植栽した場合には、高さを直径とした円の面積を緑化面積として計上することができる。

表 1-6 主要植栽予定樹種及び植栽予定本数等

区 分	主要植栽予定樹種	植栽予定本数
大景木	常緑広葉樹 シラカシ、アラカシ、タブノキ等	97本
	落葉広葉樹 ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ヤマザクラ等	
高 木	常緑広葉樹 タブノキ、ヤブニッケイ等	102本
	落葉広葉樹 ヤマモミジ、ヤマザクラ、エゴノキ、クヌギ、コナラ、ミズキ等	
中 木	常緑広葉樹 シラカシ、シロダモ、ヤブツバキ等	396本
	落葉広葉樹 ヤマボウシ、エゴノキ等	
低 木	常緑広葉樹 サツキツツジ、トベラ、アオキ、マユミ等	12,661本
	落葉広葉樹 ドウダンツツジ、ヒュウガミズキ、ヤマブキ、ユキヤナギ、ミツバツツジ等	
地被類	ヤブラン、ベニシダ、リュウノヒゲ、フッキソウ等	約1,722m ²

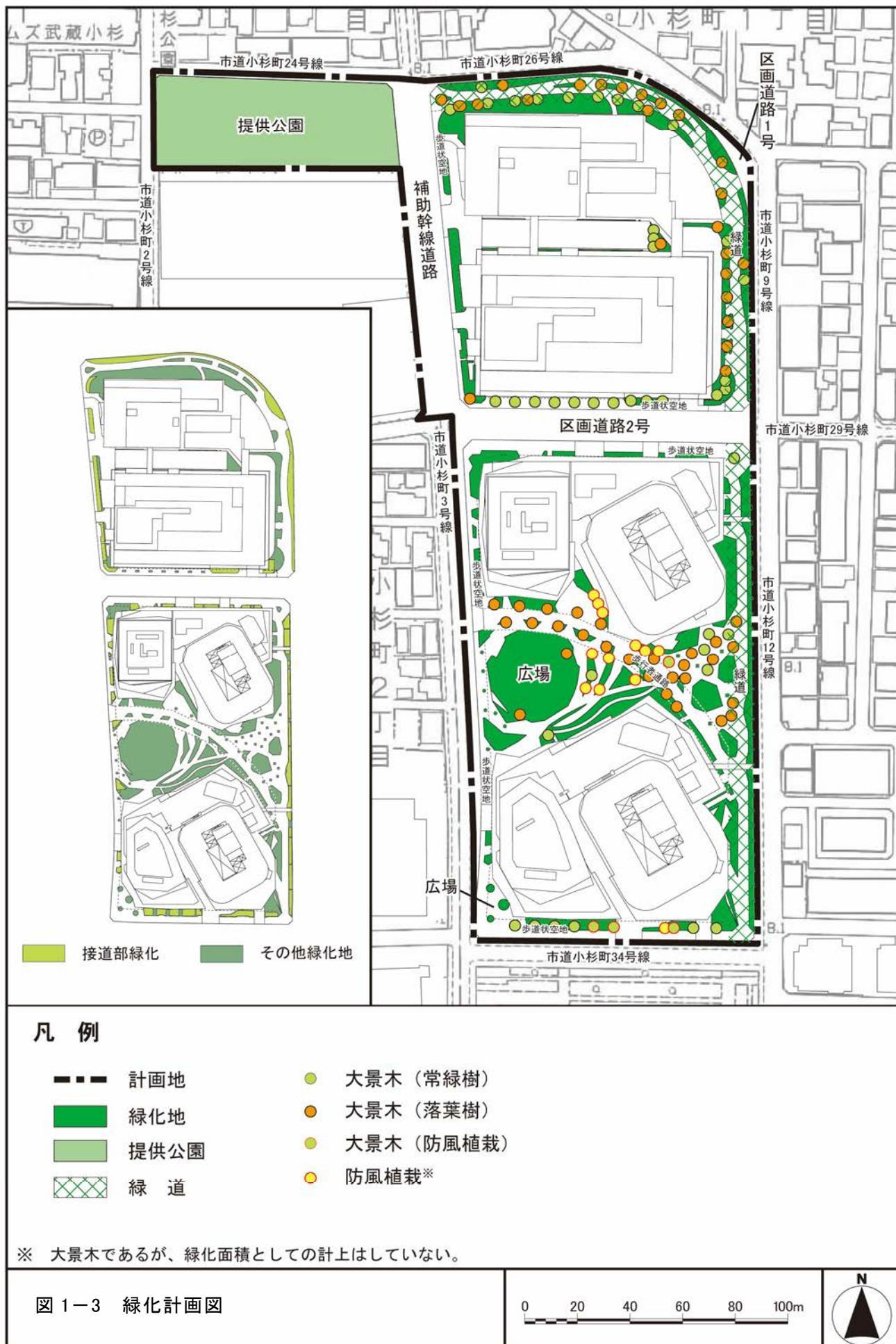
注1) 大景木：高さ6m以上、目通周0.4m以上、葉張り2.5m以上

高 木：樹高3m以上、目通周0.18m以上、葉張り0.8m以上

中 木：樹高1.5m以上3m未満、葉張り0.3m以上

低 木：樹高0.3m以上1.5m未満、葉張り0.3m以上

注2) 「指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届（令和6年1月31日届出）」の内容を示す。



オ 年間維持管理計画

緑地の維持管理については、表 1-7 に示す年間維持管理計画により、適切に剪定、刈込み、施肥、病虫害防除、除草・刈草、灌水等を実施することにより、樹木等の健全な育成を図る計画である。

なお、緑化地には「川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づいて緑化の将来目標を明示した看板を設置し、周知を図ることとする。

表 1-7 年間維持管理計画

作業種	作 業 時 期												年間作業回数
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
剪定 (常緑広葉樹)					■	■			■	■			1～2 回
剪定 (落葉広葉樹)	■	■					■	■			■		1～2 回
刈込み					■	■	■	■	■	■	■		1～2 回
施 肥	■	■	■			■						■	1～2 回
病虫害防除	■	■			■	■	■	■	■	■			1～2 回
除草・刈草					■	■	■	■	■	■			1～2 回
灌 水	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	適 宜

(6) 指定開発行為の実施状況

本事業は、平成 28 年 10 月 7 日に条例環境影響評価書（以下、「条例評価書」という。）を提出した後、平成 30 年 5 月 8 日より工事着手している。本事業では A 地区、B 地区、C 地区の段階的な工事を計画しており、現在は A 地区及び B 地区の病院棟工事は完了し、B 地区の教育施設及び C 地区の工事を行っている。

なお、条例評価書提出後、指定開発行為・条例方法書等・事後調査実施計画変更届により、土地利用計画、建築計画、緑化計画及び施工計画等について、変更を行っている。

(7) 環境保全のための措置の実施状況

条例評価書に記載している環境保全のための措置の実施状況は、表 1-8(1)~(2)及び写真 1-1~4 に示すとおりである。

表 1-8(1) 緑（供用時）に関する環境保全のための措置の実施状況

緑の質	
条例評価書に記載の環境保全のための措置	実施状況
日照条件及び風環境に応じた樹種を選定し、樹木の健全な育成に努める。	生育環境を考慮し、日影の影響が考えられる場所にはアオキなどの耐陰性を有する樹種を植栽した。 なお、B地区内に防風植栽を植栽する計画は無いが、アラカシやケヤキなどの耐風性を有する樹種を植栽した。
花や紅葉の美しい樹木など季節が感じられる樹種を選定する。	花や紅葉の美しい樹木として、サルスベリ、ツツジ類など、季節が感じられる樹種として、ケヤキ、イロハモミジなどを植栽した。(写真 1-1 参照)
植栽の維持管理計画を作成し、適切な剪定、刈込み、施肥、病虫害防除、除草、灌水等を実施することにより、樹木等の健全な育成を図る。	年間維持管理計画のもとで病虫害や雑草の発生、水不足などがないかどうか計画地内の植栽を随時見回り、必要に応じて剪定や刈込を行うことで、樹木の健全な育成を図った。(写真 1-2 参照)
計画地内に生育している樹木の保存及び移植については、移植の難易度、樹勢、緑化計画等を踏まえて検討する。	計画地内に生育していた樹木の保存または移植を検討したが、樹木医の診断により老木であったことや樹木活力度が悪かったことから、移植・保存は困難であると判断し、実施しなかった。
石礫が緑化地に残らないよう十分に配慮し、樹木の生育に適した植栽基盤の確保に努める。	石礫が緑化地に残らないよう十分に配慮し、樹木の生育に適した植栽基盤を確保した。
現況の土壌を確認するとともに、潜在自然植生に適した土壌を考慮し、必要に応じて耕耘や砂質土等による土壌改良等により下層基盤の通気性及び排水性を改善するなど、樹木の健全な育成に努める。	現況の土壌を確認したうえで耕耘を実施し、黒土とパーク堆肥により置換工法により土壌改良を実施した。また、高木に対しては、下層基盤の通気性を確保するために根鉢まわりに酸素管を設置した。 (写真 1-3 参照)
計画地内の一部に存在している良質な土壌を有効活用する。	計画地内に存在していた良質な土壌は、植栽基盤の整備に利用した。
必要土壌量を上回る良質な客土を用いて基盤の充実を図る。	緑化地の整備にあたっては、良好な植栽基盤となるよう良質な客土を用い、十分な土壌量を確保して、基盤の充実を行った。

表 1－8(2) 緑（供用時）に関する環境保全のための措置の実施状況

緑の量	
条例評価書に記載の環境保全のための措置	実施状況
全体の緑の構成を考慮し、高木・中木・低木、地被類を適切に組み合わせ、多様な緑の創出を図る。	高木・中木・低木、地被類を適切に組み合わせ植栽し、多様な緑を創出した。(写真 1－4 参照)
植栽の維持管理計画を作成し、適切な剪定、刈込み、施肥、病虫害防除、除草、灌水等を実施することにより、樹木等の健全な育成を図る。	年間維持管理計画のもとで病虫害や雑草の発生、水不足などがないかどうか計画地内の植栽を随時見回り、必要に応じて選定や刈込を行うことで、樹木の健全な育成を図った。(写真 1－2 参照)
計画地内に生育している樹木の保存及び移植については、移植の難易度、樹勢、緑化計画等を踏まえて検討する。	計画地内に生育していた樹木の保存または移植を検討したが、樹木医の診断により老木であったことや樹木活力度が悪かったことから、移植・保存は困難であると判断し、実施しなかった。



写真 1－1 サルスベリの配植
(2024 年 8 月 14 日)



写真 1－2 剪定作業の様子
(2022 年 4 月 12 日)



写真 1－3 酸素管の設置
(2021 年 5 月 10 日)



写真 1－4 多様な緑の創出
(2024 年 8 月 14 日)

2 条例評価書に掲げる事後調査計画の概要

(1) 事後調査の目的

事後調査は、事業者自らが工事中及び供用後の環境の状況等について調査を実施し、予測・評価結果の検証を行うとともに、本事業の実施に伴い大きな影響が生じている場合には、新たな環境保全のための措置を適切に講ずることにより、環境への影響の低減を図り、適正な事業実施に資することを目的とする。

(2) 事後調査の内容

本事業で実施する事後調査項目は、表 2-1 に示すとおりである。

本事業では、工事中は大気質、土壤汚染、騒音、産業廃棄物、供用時は緑（緑の質）、風害について、条例評価書に掲げる事後調査計画に基づき、適正な時期に事後調査を実施することとしている。

ア 工事中

①大気質

建設機械の稼働に伴う大気質への影響については、短期予測において二酸化窒素の環境保全目標（0.2ppm 以下）を満足すると予測している。工事の実施にあたって、窒素酸化物の排出削減や計画地周辺への影響低減のための環境保全のための措置を講ずる計画である。

しかしながら、予測結果が中央公害対策審議会答申による短期暴露の指針値の上限に近いこと及び計画地内に大気汚染物質等の環境影響をできるだけ低く抑えるべき病院施設が存在していることなどから、予測・評価結果について検証することを目的に、事後調査を実施する。

調査項目は、建設機械の稼働に伴う大気質濃度（二酸化窒素濃度）及び気象（風向・風速）とする。

②土壤汚染

土壤汚染については、人の健康の保護の観点からみて必要な水準を超えないものと評価している。

本事業においては、建設発生土を計画地外に搬出する計画であるため、汚染土壤の有無の確認を行うとともに、汚染土壤が確認された場合には、汚染土壤の処理・処分が適切に行われているかを確認するため、事後調査を実施する。

③騒音

工事用車両の走行に伴う騒音の影響については、道路沿道の生活環境の保全に著しい影響を及ぼすことはないとは評価している。

しかしながら、工事中基礎交通量による等価騒音レベルが環境保全目標の値を下回っていた地点において、本事業の実施により環境保全目標の値を超過する予測地点があることから、予測・評価結果について検証することを目的に、事後調査を実施する。

④産業廃棄物

工事中に発生する産業廃棄物の種類と発生量及びその処理方法については、計画地周辺の生活環境の保全に支障はないものと評価している。

しかしながら、解体工事に伴い発生する廃石綿等及び石綿含有産業廃棄物については、今後詳細な調査を実施したうえで対応を図るため、それらの発生量、処分方法及び飛散等の防止に関する措置の実施状況を把握することを目的に、事後調査を実施する。

イ 供用時

①緑（緑の質）

緑の質については、供用時には緑の適切な回復育成が図られるものと評価している。

しかしながら、緑の回復育成の予測結果は、植栽後の天候や気象条件、事業に伴い創出される新たな生育環境の状況により不確実性を伴うことから、調査時期時点での植栽樹木の生育状況を把握することを目的に、事後調査を実施する。

②風害

風害については、供用時には計画地近傍において住宅地相当及び低中層市街地相当の風環境とされる領域 A もしくは領域 B が確保され、計画地周辺の生活環境の保全に支障を及ぼさないと評価している。

しかしながら、防風対策により風環境の改善を図る箇所（C 地区 N 棟の南西側（広場付近）及び S 棟の南側）及び計画地近傍で領域 A から領域 B に風環境が変化すると予測される地点の多い箇所（B 地区と C 地区間の道路沿道及び C 地区東側道路沿道）については、気象の状況により不確実性を伴うことから、予測・評価結果について検証することを目的に、事後調査を実施する。

表 2-1 本事業で実施する事後調査項目

事後調査の内容		調査時期	実施状況
工事中	環境影響評価項目：大気質 環境影響要因：建設機械の稼働 調査項目：大気質（二酸化窒素）、気象（風向・風速）	予測を行った建設機械の最大稼働時 （工事開始後 56 ヶ月目：第 2 期工事）	●
		予測を行った建設機械の最大稼働時 （工事開始後 114 ヶ月目：第 2 期工事）	—
	環境影響評価項目：土壌汚染 環境影響要因：工事等の影響 調査項目：汚染土壌の有無、 汚染土壌の処理・処分の状況	土壌汚染に係る調査及び対策等を行う時期	●
	環境影響評価項目：騒音 環境影響要因：工事用車両の走行 調査項目：工事用車両の走行に伴う等価騒音レベル、自動車交通量	工事用車両台数（大型車）が最大となる 工事開始後 84 ヶ月目	—
	環境影響評価項目：産業廃棄物 環境影響要因：工事等の影響 調査項目：廃石綿等及び石綿含有産業廃棄物の発生 量及びその処分方法、廃石綿等及び石綿 含有産業廃棄物の飛散等の防止に関する 措置の実施状況	工事中	●
供用時	環境影響評価項目：緑（緑の質） 環境影響要因：緑の回復育成 調査項目：植栽樹木の樹木活力度 植栽樹木の維持管理状況	第1期工事の完了後3年経過した後の春から 夏の適切な時期	○
		第2期工事のB地区工事完了後3年経過した後の 春から夏の適切な時期	—
		第2期工事のC地区工事完了後3年経過した後の 春から夏の適切な時期	—
	環境影響評価項目：風害 環境影響要因：高層建築物等の存在 調査項目：風向・風速	計画建物の竣工後、かつ、 防風対策の植栽が完了した時期	—

注）○：今回報告分 ●：実施済み —：未実施（今後実施予定）

（３）調査実施者（業務受託者）

名 称：株式会社日建設計

代表者：代表取締役社長 大松 敦

住 所：東京都千代田区飯田橋 2 丁目 18 番 3 号

3 事後調査結果

(1) 調査目的

本事業の実施により、新たな緑の回復育成が適切に図られたかどうかを確認するため、植栽樹木の樹木活力度と維持管理状況を把握した。

(2) 調査範囲

調査範囲は、病院棟供用区域内の緑化地とした。また、表 3-1 及び図 3-1 に示すとおり、計画地を 3 つのゾーンに区分し、ゾーン毎に集計及び評価を実施した。

なお、B 地区西側の教育施設棟供用区域内の緑化地（ゾーン 4: 暫定利用中の駐輪場）については、第 2 期工事の B 地区工事完了後 3 年経過した後の春から夏の適切な時期に調査を実施する。

表 3-1 調査範囲のゾーン区分

区分		概要	実施状況
病院棟 供用区域内 の緑化地	ゾーン 1	B 地区北側及び東側の緑道を含む緑化地	○
	ゾーン 2	B 地区西側及び南側の緑化地	○
	ゾーン 3	教育施設棟（工事中）と病院棟の間の緑化地	○
教育施設棟 供用区域内 の緑化地	ゾーン 4	B 地区西側（暫定利用中の駐輪場）の緑化地	—

注 1) 教育施設棟の建築物は現在工事中であるが、駐輪場（暫定利用）を除く緑化地については、第 1 期工事において竣工している。

注 2) ○：今回報告分 —：未実施（今後実施予定）

(3) 調査時期

調査時期は、第 1 期工事完了後 3 年経過した後の春から夏の適切な時期として、下記に示す期間で実施した。

・2024 年 8 月 14 日（水）

(4) 調査方法

ア 植栽樹木の樹木活力度

調査対象樹木は、図 3-1 に示す調査範囲内の樹木とした。

樹木活力度の判定にあたっては、基本的に個体毎、生垣やまとまった植込みは箇所毎に、表 3-2(1)に示す樹勢、樹形、枝の伸長量、枝葉の密度、葉形、葉の大きさ、葉色、ネクロシスの 8 項目を把握の上、表 3-2(2)～(3)を用いた。

イ 植栽樹木の維持管理状況

植栽を管理している管理会社によりまとめられた、緑地の管理方法及び管理実績等に関する記録の内容を整理した。

■樹木活力度の調査項目等

表 3-2(1) 樹木活力度調査の項目と基準

評価基準 評価項目	1.良好、正常なもの	2.普通、正常に近いもの	3.悪化のかなり進んだもの	4.顕著に悪化しているもの
1.樹勢	生育旺盛なもの	多少影響はあるがあまり目立たない程度	異常が一目でわかる程度	生育劣弱で回復の見込みなしとみられるもの
2.樹形	自然樹形を保つもの	一部に幾分の乱れはあるが、本来の形に近いもの	自然樹形の崩壊がかなり進んだもの	自然樹形が全く崩壊し、奇形化しているもの
3.枝の伸長量	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極度に短小し、しよが状の節間がある
4.枝葉の密度	正常、枝および葉の密度のバランスがとれている	普通、1に比べやや劣る	やや疎	枯枝が多く、葉の発生が少ない。密度が著しく疎
5.葉形	正常	少しゆがみがある	変形が中程度	変形が著しい
6.葉の大きさ	正常	幾分小さい	中程度に小さい	著しく小さい
7.葉色	正常	やや異常	かなり異常	著しく異常
8.ネクロシス (え死—細胞組織の破壊) (一葉面による)	なし	わずかにある	かなり多い	著しく多い

資料：「造園施工管理 技術編 改訂 25 版」（平成 17 年 5 月、社団法人日本公園緑地協会）

表 3-2(2) 活力度指数の算定方法

単木の場合	特定樹種の場合
$Y = \frac{\sum Xi}{n}$ Y : 樹木活力度指数 Xi : 項目別指数 n : 項目数	$\bar{Y} = \frac{\sum Yj}{m}$ $\bar{Y}$: 特定樹種の平均活力度指数 Yj : 樹木活力度指数 m : 特定樹種の調査本数

資料：「造園施工管理 技術編」（昭和 50 年 10 月、社団法人日本公園緑地協会）

表 3-2(3) 樹木活力度調査の指数基準

判 定	A	B	C	D
指 数	1.00～1.75	1.76～2.50	2.51～3.25	3.26～4.00
状 態	1.良好、正常なもの	2.普通正常に近い	3.悪化のかなり進んだもの	4.顕著に悪化しているもの

資料：「造園施工管理 技術編」（昭和 50 年 10 月、社団法人日本公園緑地協会）

(5) 調査結果

ア 植栽樹木の樹木活力度

1. 全体の植栽樹木の生育状況

第1期工事完了1年後及び事後調査実施時における、調査範囲の植栽樹木の状況は、写真3-1～10に示すとおりである（写真の撮影位置は、図3-2参照）。

調査範囲において生育を確認した樹木及び樹木活力度調査の結果は、表3-3(1)、(2)に示すとおりである。

調査範囲において生育を確認した対象樹木の本数は、高木が25種121本、中木が8種26本、低木が17種52箇所であった。

樹木活力度調査の結果は、一部の樹木については「C（悪化）」もしくは「D（顕著に悪化）」であったが、ほとんどの個体は「A（良好）」もしくは「B（普通）」となり、調査範囲全体として、概ね良好な生育状況であった（調査結果の詳細は、資料編参照）。

表3-3(1) 調査範囲における活力度評価別植栽樹木の数量※

活力度評価	常緑				落葉				合計
	A	B	C	D	A	B	C	D	
高木	31	24	5	-	26	31	3	1	121
中木	9	2	1	-	7	6	1	-	26
低木	25	6	-	-	16	5	-	-	52

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

注）表中の「-」は、該当なしを示す。

表3-3(2) ゾーン別の活力度評価別植栽樹木の数量※

活力度評価		常緑				落葉				合計
		A	B	C	D	A	B	C	D	
ゾーン1	高木	12	13	5	-	18	27	3	1	79
	中木	4	2	1	-	7	6	1	-	21
	低木	14	3	-	-	16	3	-	-	36
ゾーン2	高木	17	10	-	-	7	4	-	-	38
	中木	5	-	-	-	-	-	-	-	5
	低木	5	2	-	-	-	2	-	-	9
ゾーン3	高木	2	1	-	-	1	-	-	-	4
	中木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	低木	6	1	-	-	-	-	-	-	7

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

注）表中の「-」は、該当なしを示す。



写真 3-1 No.1
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-1 No.1
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-2 No.2
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-2 No.2
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-3 No.3
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-3 No.3
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-4 No.4
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-4 No.4
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-5 No.5
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-5 No.5
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-6 No.6
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-6 No.6
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-7 No.7
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-7 No.7
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-8 No.8
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-8 No.8
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-9 No.9
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-9 No.9
(2024 年 8 月 14 日撮影)



写真 3-10 No.10
(2022 年 8 月 26 日撮影)



写真 3-10 No.10
(2024 年 8 月 14 日撮影)

2.各ゾーンの植栽樹木の生育状況

① ゾーン1

ゾーン1の調査結果は、表3-4(1)～(2)に示すとおりである。

樹種別の活力度平均でみると、高木の一部の樹種で「C（悪化）」が見られたが、ほとんどは「A（良好）」または「B（正常）」であり、良好な生育状況であった。

また、個体別にみると、高木のアラカシ1個体、シラカシ4個体、エノキ1個体、シダレザクラ1個体、サクラ類1個体、中木のキンモクセイ1個体、ハナモモ1個体が「C（悪化）」であり、高木のみズキ1個体が「D（顕著に悪化）」であった（資料編 p.1～2 参照）。

表 3-4(1) ゾーン1における樹木活力度調査結果※

区分		樹種名	数量	活力度平均	活力度評価
高木	常緑	アラカシ	4	1.91	B
		キンモクセイ	5	1.63	A
		クスノキ	1	1.13	A
		シラカシ	16	2.11	B
		タブノキ	1	2.50	B
		ヤブニッケイ	3	1.54	A
	落葉	イロハモミジ	5	1.50	A
		エゴノキ	1	2.13	B
		エノキ	1	2.63	C
		カワヅザクラ	3	2.08	B
		クヌギ	1	2.38	B
		ケヤキ	1	1.38	A
		コナラ	1	2.50	B
		サクラ類	7	2.34	B
		サルスベリ	3	2.04	B
		シダレザクラ	1	2.63	C
		ソメイヨシノ	6	1.19	A
		ハナモモ	7	1.79	B
		ミズキ	2	3.13	C
		ムクゲ	3	1.08	A
		ムクノキ	1	2.38	B
		ヤマボウシ	3	1.79	B
		ヤマモミジ	2	2.00	B
		ヨウコウ	1	2.00	B

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

表 3-4(2) ゾーン 1 における樹木活力度調査結果※

区分		樹種名	数量	活力度平均	活力度評価
中木	常緑	キンモクセイ	4	1.94	B
		セイヨウベニカナメモチ	1	1.00	A
		ヤブツバキ	1	1.25	A
		ヤブニッケイ	1	1.25	A
	落葉	エゴノキ	1	2.25	B
		ハナモモ	4	2.31	B
		マユミ	2	1.88	B
		ムクゲ	7	1.09	A
低木	常緑	アオキ	1	1.00	A
		サツキ	6	1.63	A
		シャリンバイ	1	1.00	A
		ジンチョウゲ	1	1.00	A
		トベラ	2	1.00	A
		ヒペリカム	1	1.00	A
		フィリフェラオーレア	4	1.00	A
		ヤツデ	1	1.00	A
	落葉	アジサイ	2	1.00	A
		ドウダンツツジ	2	1.31	A
		トサミズキ	1	1.00	A
		ニシキギ	3	1.21	A
		ヒュウガミズキ	1	1.00	A
		ミツバカエデ	1	1.75	A
		ミツバツツジ	4	1.94	B
		ヤマブキ	1	1.00	A
		ユキヤナギ	4	1.00	A

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

② ゾーン 2

ゾーン 2 の調査結果は、表 3-5 に示すとおりである。

樹種別の活力度平均でみると、高木、中木、低木全ての樹種が「A（良好）」または「B（正常）」であり、良好な生育状況であった。

また、個体別にみると、高木、中木、低木のいずれの個体においても「A（良好）」もしくは「B（正常）」であった（資料編 p.2～3 参照）。

表 3-5 ゾーン 2 における樹木活力度調査結果※

区分		樹種名	数量	活力度平均	活力度評価
高木	常緑	アラカシ	2	1.00	A
		シラカシ	15	1.26	A
		タブノキ	10	2.03	B
	落葉	イロハモミジ	2	1.00	A
		ゴテンバザクラ	1	1.25	A
		ソメイヨシノ	2	1.50	A
		サクラ類	6	1.71	A
中木	常緑	キンモクセイ	1	1.25	A
		セイヨウベニカナメモチ	4	1.00	A
低木	常緑	サツキ	4	1.91	B
		シャリンバイ	1	1.00	A
		トベラ	1	1.00	A
		ヤツデ	1	1.00	A
		ヤマブキ	2	2.19	B
	落葉				

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

③ ゾーン 3

ゾーン 3 の調査結果は、表 3-6 に示すとおりである。

樹種別の活力度平均でみると、高木、中木、低木全ての樹種が「A（良好）」であり、良好な生育状況であった。

また、個体別にみると、高木、低木のいずれの個体においても「A（良好）」もしくは「B（正常）」であった（資料編 p.3 参照）。

表 3-6 ゾーン 3 における樹木活力度調査結果※

区分		樹種名	数量	活力度平均	活力度評価
高木	常緑	アラカシ	3	1.29	A
	落葉	ヤマボウシ	1	1.38	A
低木	常緑	アオキ	4	1.25	A
		シャリンバイ	1	1.00	A
		ジンチョウゲ	1	1.00	A
		ヤツデ	1	1.00	A

※：高木は本数、中木、低木は本数と箇所数の合計を示す。

イ 植栽樹木の維持管理状況

調査範囲の樹木は、年間維持管理計画のもと、管理会社により必要に応じて維持管理作業が行われている。

また、生育不良がみられた個体に関しては、施肥等を行い生育状況の回復を図っている。

（6）調査結果の検証及び以後講ずる措置

計画地内の樹木活力度調査の結果、一部の樹種及び個体で「C（悪化）」もしくは「D（顕著に悪化）」が見られたが、概ね「A（良好）」もしくは「B（正常）」であり、良好な生育状況であった。なお、植栽樹木の維持管理作業は、年間維持管理計画のもと、必要に応じて実施しており、生育不良がみられた個体に関しては、施肥等を実施している。

「D（顕著に悪化）」と判断された樹木については、第 2 期工事の通路新設の支障となる位置に存在しているため、第 2 期工事の期間中に撤去する予定である。なお、当該樹木は、竣工時より生育不良が確認されていたことから、同種を別の場所に植栽しており、植栽後の生育状況は「B（正常）」であった。

本調査で「C（悪化）」もしくは「D（顕著に悪化）」と判断された樹木については、生育不良の要因の 1 つとして地下水位の影響が考えられるが、要因の特定には至っていない。今後の管理において具体的な対策内容について検討していくほか、生育状況の悪化の兆候がみられた樹木については、早期に原因を把握し、施肥及び土壌改良等により生育状況の回復を図るとともに、必要に応じて植替えを実施する。

以上のことから、計画地においては、緑の適切な回復育成が図られると考える。

資 料 編

表 1-1 樹木活力度調査結果

ゾーン名	No.	樹種名	区分1	区分2	樹高 (m)	枝張 (m)	胸高周 (cm)	活力度								活力度 指数	活力度 評価	備考
								樹勢	樹形	枝伸長	枝葉密度	葉形	葉大さ	葉色	ネクロシス			
ゾーン1	1	アラカシ	常緑	高木	6.5	4.5	72.8	2	2	2	2	1	1	1	1	1.50	A	
	2	アラカシ	常緑	高木	7.0	4.0	71.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	3	アラカシ	常緑	高木	7.0	4.0	68.0	3	3	2	3	2	3	2	2	2.50	B	
	4	アラカシ	常緑	高木	7.0	4.0	61.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	5	キンモクセイ	常緑	高木	3.1	2.0	49.0	2	1	2	2	2	1	2	1	1.63	A	
	6	キンモクセイ	常緑	高木	3.0	1.9	31.5	2	2	2	3	2	2	2	2	2.13	B	
	7	キンモクセイ	常緑	高木	3.1	1.7	21.7	2	2	1	1	2	1	2	1	1.50	A	
	8	キンモクセイ	常緑	高木	3.1	2.1	22.4	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	9	キンモクセイ	常緑	高木	3.1	1.8	24.5	2	2	2	2	1	2	2	2	1.88	B	
	10	クスノキ	常緑	高木	12.0	4.5	128.0	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
	11	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	23.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	12	シラカシ	常緑	高木	8.5	3.0	60.0	2	1	2	2	1	2	2	1	1.63	A	
	13	シラカシ	常緑	高木	9.0	3.5	113.4	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	14	シラカシ	常緑	高木	8.0	3.5	51.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	15	シラカシ	常緑	高木	6.5	3.0	43.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	16	シラカシ	常緑	高木	6.5	2.5	27.0	3	3	3	3	2	2	2	2	2.50	B	
	17	シラカシ	常緑	高木	6.0	2.5	25.0	3	2	2	2	2	2	2	2	2.13	B	
	18	シラカシ	常緑	高木	9.0	2.5	58.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	19	シラカシ	常緑	高木	8.0	2.5	48.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	20	シラカシ	常緑	高木	8.0	2.5	60.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	21	シラカシ	常緑	高木	9.0	2.0	60.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	22	シラカシ	常緑	高木	9.0	3.0	60.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	23	シラカシ	常緑	高木	9.0	1.0	59.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	24	シラカシ	常緑	高木	8.5	3.0	57.0	3	3	2	3	3	2	3	2	2.63	C	
	25	シラカシ	常緑	高木	6.0	3.0	50.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	26	シラカシ	常緑	高木	9.0	3.5	55.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	27	タブノキ	常緑	高木	5.5	3.5	55.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	28	ヤブニッケイ	常緑	高木	4.5	2.5	20.0	2	1	1	1	2	2	2	1	1.50	A	
	29	ヤブニッケイ	常緑	高木	4.5	3.0	60.9	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	30	ヤブニッケイ	常緑	高木	5.0	2.5	74.2	3	2	2	3	1	2	3	1	2.13	B	
	31	イロハモミジ	落葉	高木	5.0	3.0	74.2	2	1	2	1	2	2	2	1	1.63	A	
	32	イロハモミジ	落葉	高木	5.0	4.0	74.9	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	33	イロハモミジ	落葉	高木	4.5	3.0	60.9	3	2	2	2	2	2	2	2	2.13	B	
	34	イロハモミジ	落葉	高木	5.5	3.5	67.2	1	2	1	1	1	1	1	1	1.13	A	
	35	イロハモミジ	落葉	高木	4.5	2.5	101.5	2	3	2	2	1	1	1	1	1.63	A	
	36	エゴノキ	落葉	高木	5.0	3.5	44.8	3	2	2	2	2	3	2	1	2.13	B	
	37	エノキ	落葉	高木	10.0	4.0	52.0	3	3	2	3	2	3	3	2	2.63	C	
	38	カワツザクラ	落葉	高木	4.5	4.5	42.0	2	3	1	2	2	2	2	2	2.00	B	
	39	カワツザクラ	落葉	高木	4.0	3.5	45.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	40	カワツザクラ	落葉	高木	4.5	4.5	49.0	2	2	2	3	2	3	2	2	2.25	B	
	41	クヌギ	落葉	高木	8.0	2.5	53.9	2	3	2	3	2	3	2	2	2.38	B	
	42	ケヤキ	落葉	高木	8.0	4.0	81.0	2	1	1	1	2	2	1	1	1.38	A	
	43	コナラ	落葉	高木	7.0	3.0	74.2	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	44	サクラ類	落葉	高木	7.5	4.0	54.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	45	サクラ類	落葉	高木	7.5	4.0	52.0	2	3	2	3	2	2	2	1	2.13	B	
	46	サクラ類	落葉	高木	7.5	3.0	49.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B	
	47	サクラ類	落葉	高木	7.0	4.0	51.0	3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B	
	48	サクラ類	落葉	高木	7.5	4.0	52.0	3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B	
	49	サクラ類	落葉	高木	7.5	4.0	55.0	3	2	2	3	2	2	3	2	2.38	B	
	50	サクラ類	落葉	高木	4.5	4.5	49.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	51	サルスベリ	落葉	高木	6.5	4.5	128.8	2	2	1	2	1	1	1	1	1.38	A	
	52	サルスベリ	落葉	高木	9.0	4.0	99.4	3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B	
	53	サルスベリ	落葉	高木	7.0	3.5	44.8	3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B	
	54	シダレザクラ	落葉	高木	10.0	4.5	83.0	3	3	3	3	2	2	3	2	2.63	C	
	55	ソメイヨシノ	落葉	高木	7.0	6.5	72.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	56	ソメイヨシノ	落葉	高木	7.5	5.5	69.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	57	ソメイヨシノ	落葉	高木	7.5	6.0	69.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	58	ソメイヨシノ	落葉	高木	7.5	6.0	68.0	2	2	2	1	1	1	2	1	1.63	A	
	59	ソメイヨシノ	落葉	高木	7.0	6.0	70.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
	60	ソメイヨシノ	落葉	高木	6.0	6.5	68.0	2	1	2	2	1	1	2	1	1.50	A	
	61	ハナモモ	落葉	高木	3.0	2.2	16.0	2	1	1	1	1	1	1	1	1.25	A	
	62	ハナモモ	落葉	高木	3.2	2.5	21.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	63	ハナモモ	落葉	高木	3.2	2.6	16.0	2	2	1	1	2	3	3	1	1.88	B	
	64	ハナモモ	落葉	高木	3.5	2.5	16.0	2	2	2	2	2	2	3	2	2.13	B	
	65	ハナモモ	落葉	高木	3.5	2.0	13.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
	66	ハナモモ	落葉	高木	3.0	2.0	14.7	2	2	2	2	2	2	3	2	2.13	B	
	67	ハナモモ	落葉	高木	4.5	4.0	27.3	1	1	1	1	1	1	2	1	1.13	A	
	68	ミズキ	落葉	高木	5.0	2.0	19.0	3	3	2	2	2	2	2	2	2.25	B	
	69	ミズキ	落葉	高木	3.5	1.0	61.6	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00	D	
	70	ムクゲ	落葉	高木	3.2	2.1	53.9	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	

注) 区分2は、「川崎市緑化指針」(令和4(2022)年2月一部改正、川崎市)の標準規格による樹高区分を参考に区分した。

表 1-2 樹木活力度調査結果

ゾーン名	No.	樹種名	区分1	区分2	樹高 (m)	枝張 (m)	胸高周 (cm)	活力度							活力度 指数	活力度 評価	備考
								樹勢	樹形	枝伸長	枝葉密度	葉形	葉大さ	葉色			
ゾーン1	71	ムクゲ	落葉	高木	3.6	2.2	69.3	2	1	1	1	1	1	2	1	1.25	A
	72	ムクゲ	落葉	高木	3.4	2.0	37.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	73	ムクノキ	落葉	高木	7.5	4.0	51.0	3	2	2	3	2	2	3	2	2.38	B
	74	ヤマボウシ	落葉	高木	5.5	4.0	108.5	2	1	2	2	2	2	2	2	1.88	B
	75	ヤマボウシ	落葉	高木	5.5	4.5	113.4	3	3	2	2	3	2	3	2	2.50	B
	76	ヤマボウシ	落葉	高木	3.5	2.0	38.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	77	ヤマモミジ	落葉	高木	4.5	4.0	54.6	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	78	ヤマモミジ	落葉	高木	5.0	3.0	37.1	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	79	ヨウコウ	落葉	高木	10.0	5.0	71.0	3	2	1	1	3	3	3	2	2.00	B
	80	キンモクセイ	常緑	中木	2.9	1.6		3	2	3	3	3	2	3	2	2.63	C
	81	キンモクセイ	常緑	中木	2.9	1.9		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	82	キンモクセイ	常緑	中木	2.9	1.7		2	3	2	3	2	2	2	2	2.25	B
	83	キンモクセイ	常緑	中木	2.8	1.5		2	2	2	2	1	2	2	2	1.88	B
	84	セイヨウベニカナメモチ	常緑	中木	1.8	0.8		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	85	ヤブツバキ	常緑	中木	2.9	1.2		2	1	1	1	1	1	2	1	1.25	A
	86	ヤブニッケイ	常緑	中木	2.6	1.6		1	1	1	1	1	1	2	2	1.25	A
	87	エゴノキ	落葉	中木	2.8	2.6		2	2	2	2	2	2	3	3	2.25	B
	88	ハナモモ	落葉	中木	2.6	1.6		2	2	2	2	2	2	3	2	2.13	B
	89	ハナモモ	落葉	中木	2.8	2.2		2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	90	ハナモモ	落葉	中木	2.5	0.8		3	3	3	3	2	3	3	3	2.88	C
	91	ハナモモ	落葉	中木	2.8	2.0		2	3	2	2	2	2	3	2	2.25	B
	92	マユミ	落葉	中木	1.6	1.6		1	2	2	2	2	2	2	2	1.88	B
	93	マユミ	落葉	中木	1.6	1.1		1	2	2	2	2	2	2	2	1.88	B
	94	ムクゲ	落葉	中木	2.4	1.3		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	95	ムクゲ	落葉	中木	2.9	2.5		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	96	ムクゲ	落葉	中木	2.6	1.5		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	97	ムクゲ	落葉	中木	2.6	1.6		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	98	ムクゲ	落葉	中木	2.8	2.4		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	99	ムクゲ	落葉	中木	2.9	2.2		2	2	1	2	1	1	1	1	1.38	A
	100	ムクゲ	落葉	中木	2.8	1.8		2	2	1	1	1	1	1	1	1.25	A
	101	アオキ	常緑	低木	1.0			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	102	サツキ	常緑	低木	0.5			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	103	サツキ	常緑	低木	0.7			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	104	サツキ	常緑	低木	0.7			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	105	サツキ	常緑	低木	0.5			2	2	2	3	2	1	2	1	1.88	B
	106	サツキ	常緑	低木	0.6			3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B
	107	サツキ	常緑	低木	0.6			3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B
	108	シャリンバイ	常緑	低木	1.0			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	109	ジンチヨウゲ	常緑	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	110	トベラ	常緑	低木	0.9			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	111	トベラ	常緑	低木	1.0			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	112	ヒベリカム	常緑	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	113	フィリフェラオーレア	常緑	低木	0.5			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	114	フィリフェラオーレア	常緑	低木	0.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	115	フィリフェラオーレア	常緑	低木	0.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	116	フィリフェラオーレア	常緑	低木	0.6			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	117	ヤツデ	常緑	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	118	アジサイ	落葉	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	119	アジサイ	落葉	低木	0.7			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	120	ドウダンツツジ	落葉	低木	0.7			1	1	1	1	3	2	2	2	1.63	A
	121	ドウダンツツジ	落葉	低木	1.2			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	122	トサミズキ	落葉	低木	0.6			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	123	ニシキギ	落葉	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	124	ニシキギ	落葉	低木	1.0			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	125	ニシキギ	落葉	低木	1.2			2	1	1	1	2	2	2	2	1.63	A
	126	ヒュウガミズキ	落葉	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	127	ミツバカエデ	落葉	低木	1.3			2	2	1	2	2	1	2	2	1.75	A
	128	ミツバツツジ	落葉	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	129	ミツバツツジ	落葉	低木	0.7			3	2	2	3	2	1	3	3	2.38	B
	130	ミツバツツジ	落葉	低木	0.7			3	2	2	3	2	1	3	3	2.38	B
	131	ミツバツツジ	落葉	低木	1.1			2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	132	ヤマブキ	落葉	低木	1.1			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	133	ユキヤナギ	落葉	低木	0.7			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	134	ユキヤナギ	落葉	低木	0.7			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	135	ユキヤナギ	落葉	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	136	ユキヤナギ	落葉	低木	1.4			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
ゾーン2	137	アラカシ	常緑	高木	5.0	2.0	42.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	138	アラカシ	常緑	高木	6.0	2.0	45.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	139	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	46.2	2	2	1	1	2	1	2	2	1.63	A
	140	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.0	50.4	2	2	1	1	2	1	3	2	1.75	A

注) 区分2は、「川崎市緑化指針」(令和4(2022)年2月一部改正、川崎市)の標準規格による樹高区分を参考に区分した。

表 1-3 樹木活力度調査結果

ゾーン名	No.	樹種名	区分1	区分2	樹高 (m)	枝張 (m)	胸高周 (cm)	活力度							活力度 指数	活力度 評価	備考
								樹勢	樹形	枝伸長	枝葉密度	葉形	葉大きさ	葉色			
ゾーン2	141	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	36.4	2	2	1	1	2	1	3	2	1.75	A
	142	シラカシ	常緑	高木	4.0	1.5	75.6	2	2	1	1	2	1	3	2	1.75	A
	143	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.0	42.0	2	2	1	1	2	1	3	2	1.75	A
	144	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.0	50.4	1	1	1	1	1	1	2	1	1.13	A
	145	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	42.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	146	シラカシ	常緑	高木	5.0	2.0	42.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	147	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	46.2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	148	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	50.4	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	149	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.5	44.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	150	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.0	42.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	151	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	41.3	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	152	シラカシ	常緑	高木	4.5	2.0	12.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	153	シラカシ	常緑	高木	4.0	2.0	42.0	2	1	1	1	1	1	1	1	1.13	A
	154	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	89.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	155	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	69.0	3	3	2	3	2	2	3	2	2.50	B
	156	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.5	80.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	157	タブノキ	常緑	高木	8.5	4.0	69.0	2	2	1	2	2	2	3	2	2.00	B
	158	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	60.0	2	2	2	3	2	1	3	2	2.13	B
	159	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	60.0	2	2	2	2	2	1	3	2	2.00	B
	160	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	68.0	2	2	2	2	1	1	3	2	1.88	B
	161	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	64.0	2	2	2	2	1	1	3	2	1.88	B
	162	タブノキ	常緑	高木	6.0	4.0	62.0	3	2	2	2	1	1	3	2	2.00	B
	163	タブノキ	常緑	高木	9.0	4.0	57.0	2	2	2	2	2	1	2	2	1.88	B
	164	イロハモミジ	落葉	高木	4.0	3.5	68.6	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	165	イロハモミジ	落葉	高木	4.0	3.5	56.7	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	166	ゴテンバザクラ	落葉	高木	4.0	2.0	30.8	2	1	1	2	1	1	1	1	1.25	A
	167	サクラ類	落葉	高木	8.5	6.0	84.0	2	2	2	2	2	3	2	2	2.13	B
	168	サクラ類	落葉	高木	5.5	4.5	40.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	169	サクラ類	落葉	高木	4.0	1.5	19.0	3	3	2	3	1	1	1	1	1.88	B
	170	サクラ類	落葉	高木	4.5	1.5	25.9	3	3	2	3	1	1	1	1	1.88	B
	171	サクラ類	落葉	高木	4.0	2.0	26.0	2	2	1	2	1	1	2	2	1.63	A
	172	サクラ類	落葉	高木	4.5	2.0	59.5	2	2	1	3	1	1	2	2	1.75	A
	173	ソメイヨシノ	落葉	高木	4.5	3.0	35.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	174	ソメイヨシノ	落葉	高木	5.0	3.0	39.0	2	2	2	3	2	3	1	1	2.00	B
	175	キンモクセイ	常緑	中木	2.6	1.6		2	1	1	1	2	1	1	1	1.25	A
	176	セイヨウベニカナメモチ	常緑	中木	3.2	1.4		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	177	セイヨウベニカナメモチ	常緑	中木	2.9	1.2		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	178	セイヨウベニカナメモチ	常緑	中木	1.8	6.0		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	179	セイヨウベニカナメモチ	常緑	中木	2.2	0.8		1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	180	サツキ	常緑	低木	0.9			3	2	2	3	3	2	2	2	2.38	B
	181	サツキ	常緑	低木	0.6			2	1	2	2	2	1	2	2	1.75	A
	182	サツキ	常緑	低木	0.6			2	1	1	1	1	1	1	1	1.13	A
	183	サツキ	常緑	低木	0.6			3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B
	184	シャリンバイ	常緑	低木	0.9			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	185	トベラ	常緑	低木	0.6			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	186	ヤツデ	常緑	低木	0.6			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	187	ヤマブキ	落葉	低木	0.9			2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B
	188	ヤマブキ	落葉	低木	0.6			3	3	2	3	2	2	2	2	2.38	B
ゾーン3	189	アラカシ	常緑	高木	6.5	3.0	53.0	2	1	2	2	2	2	2	2	1.88	B
	190	アラカシ	常緑	高木	8.0	3.5	58.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	191	アラカシ	常緑	高木	8.5	2.5	50.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	192	ヤマボウシ	落葉	高木	6.5	4.0	105.0	2	2	1	1	1	1	2	1	1.38	A
	193	アオキ	常緑	低木	0.8			2	2	1	2	2	2	3	2	2.00	B
	194	アオキ	常緑	低木	0.9			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	195	アオキ	常緑	低木	0.9			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	196	アオキ	常緑	低木	1.0			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	197	シャリンバイ	常緑	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	198	ジンチョウゲ	常緑	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A
	199	ヤツデ	常緑	低木	0.8			1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A

注 1) 区分 2 は、「川崎市緑化指針」(令和 4(2022)年 2 月一部改正、川崎市)の標準規格による樹高区分を参考に区分した。

注 2) No.176 のセイヨウベニカナメモチは、生垣として取り扱っていることから中木に区分した。